

令和7年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立矢口中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・多くの生徒が授業に対して積極的に取り組んでいる。特にALTやペアとの会話練習やパフォーマンステストなどに対しても意欲的であり、小学校での英語教育など早い時期から英語活動に触れてきた成果が表れているといつてよい。話す活動への積極性に比例して、聞く力も年々向上している。
- ・基礎的な分野での知識が定着しつつある。単語、短文などの反復を重ねることで少しずつ運用できる言語材料が増えてきた。今後も単語テストや教科書準拠のワークなどを用い、理解を深めていく。

(2) 課題

- ・長文やまとまった英文を読むことに慣れていない生徒が多い。教科書の構成が会話ベースになっているため、自分で手軽に読むことができるまとまった英文に出会えていないことが要因と考えられる。学んだ英文法を用いて、長文を読み、解析していくことが必要である。
- ・基礎的・基本的な内容は定着しているが、それを活用して表現する力が身につけていない。日本語を英語に直すのではなく、英語で考える力を育成することが必要である。
- ・「なぜ英語を学ぶ必要があるのか」という子どもの疑問に対して、教える側が明確な答えをもちながら、新しい言語を学ぶことで自己の世界が広がる楽しさを受容的な雰囲気の中で伝えていくことで主体的な学びの姿勢が生まれてくると考える。あたたかい雰囲気の中で活発な会話が生まれていくよう支援したい。
- ・意欲的である書く力向上のため、さらに文表現を豊かにする熟語や助動詞の効果的な使い方について学ぶ必要がある。短文から、複文へと発展させることや場面に合わせた表現を用いていくことなど練習の量だけでなく質の向上が必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	校内平均正答率は全国や区を超えており、8割に達している。聞くこと、読むこと、書くこと、どの技能も正答率8割を上回っており、基礎的な力がついていることがうかがえる。問題内容別の正答率を見ると、会話全体の理解（聞く）、英文の読み取り（聞く）が若干伸び悩んだ。リスニング力の強化と、既習事項がどのような場面、内容で使われるかを意識		

	した活動を取り入れていきたい。		
第2学年	校内平均正答率はおおよそ6割に達し、全国及び区の平均を上回った。特に基礎分野の正答率が高く、基本に忠実に地道に学習した成果が表れている。中でもリスニング問題や対話文やチラシ・メールなどの概要をとらえる問題の正答率が高く、大まかに内容を把握する力がついてきている。概要把握問題に比べ、文構造や文法事項の理解度を図る問題や自分の考えを書く問題に苦戦した。基礎基本の定着を徹底することが、記述力の伸びにもつながる。	校内平均正答率は全国や区を超えており、8割に達している。聞くこと、読むこと、書くこと、どの技能も正答率8割を上回っており、基礎的な力、それを活用する力がついていることがうかがえる。問題内容別の正答率を見ると、日常会話の理解（聞く）、英文の完成（書く）が若干伸び悩んだ。既習事項がどのような場面、内容で使われるかを意識した活動を取り入れていきたい。	
第3学年	校内平均正答率は全国及び区の平均を上回り、おおよそ6割となっている。特に、語形・語法・語彙・単語の並べ替えによる英作文の正答率が高く、基本的文法事項や語彙が定着していることが読み取れる。また、活用問題の3文以上の英作文の正答率も目標値を大きく上回っており、基礎を生かして自分の考えについて記述する力もついてきたことがわかる。一方、リスニング問題で英文を聞いて自分の考えを記述する問題の正答率が目標値を下回っていることから、リスニング力の強化が今後の課題であると	校内平均正答率はおおよそ6割に達し、全国及び区の平均を上回った。特に基礎分野の正答率が高く、基本に忠実に地道に学習した成果が表れている。中でも語形、語法の知識・理解の値が高く、文法理解が定着していることが読み取れる。基礎に比べ活用分野の正答率は5割5分と若干伸び悩んだ。自分の考えについて記述したり、自分で答えを導き出したりする問題に苦手意識が見られ、学習に対する主体性と関連性があると思われる。	校内での正答率は8割を超えている。アルファベットの読みや書き取りは9割近い達成率であり、基礎の定着が読み取れる。また英文の読み書きも9割に達していることから「読む」「書く」の力が高いことがうかがえる。一方、日常会話の聞き取りは8割をきくこともあり、耳で得た音が語句とつながらず会話場面が想像できていないと推測される。英語の音に触れる場面を多く設定し、4技能の円滑なつながりを形成したい。

	考える。		
--	------	--	--

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○アルファベットや単語の慣れ親しんだものの「聞くこと」「書くこと」「読むこと」のすべての項目で高い正答率を示している。 ○「聞くこと」において、アルファベットや単語の音声の聞き取りはできるが、身近な事柄のできること・できないことの聞き分けができていない面が見受けられる。	○聞き取った対話や紹介内容の概要を聞き取る力がある。 ○英文を書く力は身につけているが、自分が伝えたい内容を正しく書く問題に少し正答率が下がっている様子が見られた。スピーチ等を通して、自分のことを発信する力を養っていききたい。	○ペアでの会話活動やALTとの関わりでは、積極的に取り組む姿勢が顕著である。スピーチや演習等、与えられた課題への取り組みも前向きだが、少し丁寧さに欠ける生徒がいる。英語に苦手意識がある生徒でも丁寧に一生懸命活動する姿勢を身に付けさせたい。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○「聞くこと」「読むこと」について、学習した知識をもとに概要を大まかに捉え、正しい選択肢を選ぶことができる。対話文に関する問題、メールの概要をとらえる問題でも、高い正答率を示している。一方、語形・語法の知識・理解については、定着しきれていない。会話活動でも語形や語法を反復練習する等、様々な場面で練習する場を作る。	○「読むこと」について、概要を知らえる力がついてきている。短い文章を読む訓練をこれからも続けていく。 ○「書くこと」について自分のことを伝える英文を書けるようになってきている。一方、三人称単数現在や過去時制の知識が定着していない部分がある。日常的に基礎基本の反復練習を行う。	○対話文の応答や英文を完成させる等、パターン化された短答問題には意欲的に取り組む傾向にある。また自分の考えや意見を述べる記述問題も抵抗なく解答できる。一方、記述問題には解答しようとさえしない生徒がいる。まずは口頭で言えるように反復練習を行い、書く活動につなげていく。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○基礎的な分野においての正答率は高く、特に語彙の知識・理解を問う対話文から情報を読み取る力に優れている。 ○「書く」活動においては、いずれも目標値を20ポイント近く上回っている。一方、	○対話を聞いたり、読んだりしてその内容を理解する力は十分に身に付けている。しかし、話したり、書いたりしてその対話の内容に適切に応答する力が目標値に達していない。全国的にこの問題の正答率が低いことから、多	

「聞く」活動は 10 ポイント未満にとどまっている。必要な情報を聞き取る力は十分に身に付いているが、まとまった内容から必要な情報を聞き取るなど、更に力を付けていくことが可能であると考ええる。	くの生徒が場面に応じた応答の仕方が十分に身に付いていないことがわかる。	
---	-------------------------------------	--

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ALT を活用し自然な表現の英語に触れる機会を多く設けると共に、情報を正しく聞き取る演習問題に取り組む。 ○音読をとおり、正しい発音、アクセントを定着させる。 ○単語テスト、スペリングコンテストの実施。	○正確な文型を定着させ、考えたことや思ったことが自然に英語で表現できるように会話場面を多く設ける。 ○教材に限らず、世界に関わる多くの素材に触れ興味や知識の幅を広げる。 ○教科書のテーマをもとに自分に置き換えて考え、相手に自分のことを伝える表現力を充実させる。	○スピーチや発表をとおり、能動的に自己表現を行い、自分の考えや気持ちが伝わる喜びを感じる機会を多く設定する。 ○協同学習を継続し、周囲から刺激を得て思考する姿勢を育てる。 ○英語という言語の背景にある文化や慣習を学び、世界への興味関心を引き出す。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○コツコツと反復練習を継続させる。授業では話す活動に基本的な練習を取り入れる。習得した基礎を土台とし、まとまった文を聞いたり読んだりする機会を多く作る。 ○分からない単語や文法があっても、文脈から状況を想像できるように、豊富な知識と世界に向けた好奇心を育てていく。他教科と連携した能動的学習にも力を入れる。	○短い文章を読む機会を多く作り、長文に取り組む素地を養う。世の中に対する関心を深め視野を広げるため、時事問題や異文化に関わる題材を積極的に授業に取り入れる。 ○スモールトピックから自分の考えを深め、話す活動から相手に伝わるように整理し文章で書く活動につなげていく。	○自他を認めるコミュニケーション活動を充実させる。自分の意見をアウトプットすることから始め、他者の意見をインプットして内面を豊かにする。英語が人とつながるためのツールであることを実感させ、その喜びをなるべく多く体験させる。 ○ALT を活用し、自然な会話活動を取り入れたい。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ALT が授業中にナチュラル	○正確な文型を定着させ、考	○ペア、グループでの活動を

スピードで話す時間を多く取る。 ○授業内で使用する単語や熟語、文法事項を増やし、自由に使えるように反復練習をすることで、苦手としている応答力の向上につなげる。	えたことや思ったことが自然に英語で表現できるように会話場面を多く設ける。 ○さまざまな題材の英作文に取り組む。文法習得とともに、自分の思いを伝え、状況に対応する力を養う。	通し、日常的に使用する言語としての理解を深めていく。 ○さまざまな題材を用いることにより、その題材に対する興味を持たせ、それを表現する発想力を養い、使用しようとする実践力を培う。 ○様々なことに興味関心を持たせ、いろいろな人との意見の交流を通して、自分自身の意見、考えを深めていく。
---	---	--